

令和7年2月14日

島本町立第四小学校
校長 川口 直樹 様

島本町立第四小学校学校協議会
会 長 川 淵 敬 子

令和7年度の学校教育活動への提言（案）

令和6年度の学校協議会を踏まえ、下記のとおり取りまとめましたのでお取り計らいをお願いします。

記

第四小学校学校協議会委員としてこどもたちの「学びと育ち」に関わり、学校の教育活動について提言をいたします。

四小学校協議会では、学校運営の状況や課題について学校から報告を受け、議論を続けてきました。学校を取り巻く環境が厳しさを増す中、日常では多くの体験活動や学校行事が実施され、こどもたちの成長発達にとって有意義なものとなっています。熱心な先生方に恵まれた学校に通える環境があることはありがたいことだと感じています。保護者や地域からも評価し、応援をする声が上がっています。

この先、特に次年度の教育活動においては、新たなチャレンジを進めていくために改めてこれまでの慣例を見直し、取捨選択する機会であると捉え、学校生活のさらなる充実と変革を図っていただきたいと願います。今年度は、研究授業等も多く取り入れられ、教職員の教育に対する強い情熱や使命感が伝わってきました。引き続き、教職員の能力向上を図っていただき、より良い授業を構想、展開していただければと思います。同時に、教職員の働き方改革を推進するためにも、教職員の負荷を減らす取組もマネジメントしていただきたいと願います。教職員の負担を減らすことは、結果として授業に力を注ぐことになり、こどもたちと向き合う時間の確保にもつながります。

また、教職員はこどもたちに寄り添い、意見を尊重し、こどもたちが生き生きと楽しそうに過ごせる環境をめざし、褒めるときには褒める、叱る時には叱るといったメリハリのある教育をしていただき、双方向のコミュニケーションのもと、お互いの関係を築いていってほしいと思います。

四小の教職員のみなさんが1年間取り組んだ中でよかったと思える点、疑問に思った点、今後改善の方策を探っていただきたい点などを以下にまとめました。

1. こどもたちの学力の向上と望ましい人間関係の構築を

学校では学力向上に教職員一丸となって取り組んでいること、友達との繋がりを大切にしていること、多様性を認め合い自ら行動する児童を育てようとしていること、教職員が同じ方向を向いて風通しの良い職員集団をつくろうとしていること、保護者や地域と話し合いを大切にし、拓かれた学校づくりを行おうとしていることなど、様々な働きかけのもとチーム四小の組織が築かれていているものと認識をしています。また、こどもの学力向上や基礎基本の定着は当然のことながら、毎年課題をもとに、その課題解決のための方策を全教職員で取り組まれているものと認識をしてい

ます。島本町の小学校児童の学力は大阪府、全国平均を上回っていることから学力は高いとはいえ、その裏には教職員の努力が見てわかります。その反面、教職員の負担が増える可能性はありますが、授業についていけない児童に対するサポート面の強化も必要に思えます。課題のある児童の学力向上を中心に、授業における指導方法の工夫改善に努めることを継続してください。特に、タブレット等 ICT を活用した効率的でわかりやすく、深まりのある授業づくりをめざして、学校として研修の充実を継続してください。現状にあった取組、研究を進められ、児童の学力向上に繋がっていただきたいと思います。

また、保護者・地域の願いは学力を身につけるだけではなく、自分が関係する人たちと望ましい人間関係を作り上げていくことだと思います。様々な個性を持った子どもたちがいる中、一人ひとりが認められ、自己肯定感が高められる学校であってほしいと願っています。

2. いじめ防止、早期発見、丁寧な指導のさらなる発展を

いじめはどこにでも起こりうることであり、その都度、こどものケアを行いながら、「いじめ」をした子どもたちにはその行為を繰り返さない指導を継続するということが大切であると考えます。学校としてもいじめ防止や早期発見の取組をもっと積極的に発信し、保護者の不安を解消し、子どもたち自身も自分の行動を振り返ることができるように指導を続けていく努力を求めたいと思います。

それぞれの学級で勉強をしたいと思っている児童が、安心して過ごせるように、一人ひとりの居場所となるように丁寧な指導をお願いします。教員と児童との関係性がうまくいかに、授業が中断したり、勉強が進まなかったりすることがないように、組織として他の教員のバックアップのもと、1年間一緒に過ごす仲間との時間がより良い時間となるような取組や声かけがあれば改善できるのではと思います。

児童が、「学校に行きたい」「学校（クラス）は楽しい」と思えるような仲間づくりとともに、豊かな人間性が育まれるように、「道徳教育」「人権教育」等を中心とした教育の充実をお願いします。また、全教職員が支援教育に対する理解を深めることができるよう、充実した研修の実施を継続してください。

3. 体力の向上について

他の教科と同様に、「体育の授業づくり」に向けて授業研究も大切にしてほしいです。「体育は遊びの延長・息抜きではなく、教科学習である。」という認識を持って指導をお願いします。

児童が体を動かすことを「苦手」、「得意」と二極化するのではなく、体を動かすことが好きになれるように、体育の授業を通じて「学び」とともに「楽しさ」も感じるができるよう指導をお願いします。運動が苦手な児童も「苦手」から「好き」に転じられるようなカリキュラムや授業の創造をお願いしたいと思います。そのためには、運動が苦手な児童や体を動かすことが嫌いな児童が、少しでも運動することが楽しいと思えるような体育の授業となるように、運動する時間の確保とともに、教職員が実技研修会等を通して技術や指導方法を学び、さらなる工夫改善を行ってください。これから先、生涯を通じて、運動する楽しさを実感できるような系統立てた取組となるよう、体育の授業についても研究を進めてもらいたいと願っています。

4. 挨拶や子どもたちの見守りとコミュニケーションについて

昨今、対人関係に悩むこと、コミュニケーションが苦手な児童が増加しているように感じます。対人関係やコミュニケーション能力の向上のため、学校生活を通じて児童の尊厳を守りつつも、挨拶

挨拶をする習慣を身に付けさせることや様々な人との交流の機会を与えることなど取組を進め、挨拶の大切さ、心地よさを知り、人と人とのコミュニケーションを深めていただけたらと願います。

また、学校は地域の交流拠点でもあるので、挨拶はこどもたちだけでなく、保護者や地域を繋ぐ役割を担っています。特に、四小校区の安全ボランティアは、組織的に危険個所を見守り、こどもたちへ温かい言葉をかけていただいております、学校と大変密に情報交換されていて良好な関係にあり、地域の方々に見守られているということを実感しています。一人でも多くの方が見守りに参加していただけることを切に願います。

5. 自然体験について

第四小学校の周囲は、田畑が多く地元の方々や企業の方々の協力のもと、自然体験（収穫など）など児童に体験させることができ、教室での授業以外で児童が学びを持っていることから、引き続き地域の方々と連携し、様々な体験をさせてあげていただきたい。自然体験とそこで働く人との出会いが児童にとって大きな財産となるものと考えます。

結びになりますが、常にこどもたちのことを考えながら教職員が取り組みを進めてきたことで、様々な体験ができたことに感謝申し上げます。

今後も、第四小学校の発展にご尽力いただきますようお願いいたします。